提携活動

■ ラファエル社とライセンス契約締結

2019年6月に、米国ラファエル社と同社が開発中のがん代謝阻害剤である「CPI-613（devimistat）」およびその関連化合物について、日本、韓国、台湾およびASEAN諸国での独占的な開発および商業化を目的とするライセンス契約を締結しました。

ラファエル社は、がん代謝阻害剤の分野を牽引している非上場の企業で、治療困難ながんに有効な新規の治療薬の開発に取り組んでいます。

ラファエル社

Devimistatは、細胞の増殖および生存に必要であるTCAサイクルを標的としてがん細胞を選択的に阻害します。また、がん細胞において化学療法剤に対する感受性を大幅に高めることから、低用量の化学療法剤と併用することで、化学療法剤の治療で一般的に認められる副作用を軽減しつつ有効性を高めることが期待できます。

■ フォーティ セブン社とライセンス契約締結

2019年7月に、米国フォーティ セブン社と同社が様々ながん腫を対象に開発中の抗CD47抗体である「5F9（magrolimab）」について、日本、韓国、台湾およびASEAN諸国で独占的に開発および商業化するライセンス契約を締結しました。

フォーティ セブン社は、がん細胞の免疫回避機構を標的とした腫瘍免疫薬を開発している企業です。Magrolimabは、抗CD47モノクローナル抗体で、がん細胞がマクロファージからの貪食作用を回避するシグナルを無効化します。現在は、急性骨髄性白血病、非ホジキンリンパ腫、卵巣がん、大腸がんなどを対象に臨床試験が実施されています。

フォーティ セブン社

CSRへの取り組み

■ 2050年に向けた中長期環境ビジョンを策定

当社は、2050年に向けた中長期環境ビジョン「Environment Challenging Ono Vision（ECO VISION 2050）」を策定しました。革新的な医薬品の創製という当社の事業活動が、健全な地球環境に支えられて成り立っていることを認識し、環境課題の解決に向けた取り組みを強化することが企業の責任であり、持続的な事業活動の基盤構築にもつながると考えています。人々が健康で健全な社会を迎えられるよう、2050年を見据えて環境負荷低減への取り組みを推進していきます。

■ 「Science Based Targets（SBT）イニシアチブ」から承認取得

2019年8月に、当社が「ECO VISION 2050」に基づいて策定した中長期的な温室効果ガス削減目標※1が、科学的根拠に基づいていると認められ、国際的な環境団体である「Science Based Targets（SBT）イニシアチブ」から承認を取得しました。

※1 当社の中長期的な温室効果ガス削減目標
- 温室効果ガスの排出量（スコープ1＋2）を2017年度と比較し、2030年度までに50%削減、2050年度までにゼロにする。
- 温室効果ガスの排出量（スコープ3）を2017年度と比較し、2030年度までに30%、2050年度までに60%削減する。

スコープ1：自社での燃料使用や研究・生産プロセスからの温室効果ガス直接排出量
スコープ2：自社が購入した電気や熱の使用による温室効果ガス間接排出量
スコープ3：スコープ1、2以外の温室効果ガス間接排出量（原料調達、製品輸送・使用・廃棄、社員の通勤・出張等）

■ 「気候関連財務情報開示タスクフォース」の提言に賛同

2019年10月に、当社は「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」の提言への賛同を表明しました。「ECO VISION 2050」の実現に向けた取り組みを進めるとともに、気候関連リスクと機会に関する評価や管理を行い、適切な情報開示を行っていきます。